

## ● 用語解説

頁	用語	解説
1	グローバル化	世界的規模に広がること。政治・経済・文化などが国境を越えて地球規模で拡大すること。
1	コミュニティー	居住地域を同じくし、利害をともにする共同社会。町村・都市・地方など、生産・自治・風俗・習慣などで深い結びつきをもつ共同体。地域社会。
1	AI（人工知能）	人口知能。人間の脳が行っている知的な作業をコンピュータで模倣したソフトウェアやシステム。 具体的には、人間の使う自然言語を理解したり、論理的な推論を行ったり、経験から学習したりするコンピュータプログラムなどを指す。
2	イノベーション	これまでのモノ・仕組みなどに対して、全く新しい技術や考え方を取り入れて新たな価値を生み出し、社会的に大きな変化を起こすこと。
2	健康寿命	零歳の者が健康で何年生きられるか示した数。このとき、健康とは傷病により就床した状態でないこと。
2	サイバー犯罪	コンピューターやそのネットワークを利用して行われる犯罪。
3	少子・高齢化	出生率が低下する一方、平均寿命が伸びたことによって、人口全体に占める子供の割合が低下し、高齢者の割合が高まること。
3	NPO	Non Profit Organization = 非営利団体。 非営利で社会貢献活動や慈善活動を行う市民団体。
4	スクラップ・アンド・ビルド	老朽化したり非能率的になった生産施設（鉱山や船舶、機械など）を廃棄して、新たに新設、かつ高性能の生産施設におきかえること。生産設備の若返り、生産能力の集中化、効率化などをねらいとして政策的な観点から推進されることが多い。
4	セーフティーネット	病気・事故や失業などで困窮した場合に、憲法第25条の「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」を保障する制度のこと
4	Iターン	生まれ育った故郷から、進学や就職を期に故郷にはない要素を求めて、故郷とは別の地域に移住すること。
4	Uターン	生まれ育った故郷から、進学や就職を期に都会へ移住した後、再び生まれ育った故郷に移住すること。
5	17の「持続可能な開発目標」 =SDGs(エスディーゼーズ)	SDGs(エスディーゼーズ)参照
6	キャリア教育	一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育。キャリアとは、人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ねのこと。また、キャリア発達とは、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程のこと。
7	こども食堂	地域の住民などが子どもに無料または低額で食事を提供する取り組み。
8	コラボレーション	異なる分野の人や団体が協力して制作すること。また、制作したものをいう。共同制作。共同事業。共同研究。協業。合作。
8	ドメイン	活動領域のこと。
9	コーディネート	各部を調整し、全体をまとめること。
9	社会教育主事	社会教育を行う者に専門的技術的な助言と指導を与えるとともに、学校が社会教育関係団体、地域住民その他の関係者の協力を得て教育活動を行う場合は、その求めに応じて必要な助言を行う、都道府県及び市町村の教育委員会の事務局に置かれる専門的職員のこと。

9	商助	企業や事業者が地域への貢献を通して、地域の発展あつての商売繁盛を意識し、商いが地域を助け、地域が商いを助けるというしくみを超高齢社会の生活体制の整備に活かしていくこと。 「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」の近江商人の三方よしの精神に則っている。
10	ソーシャルビジネス	高齢者や障害者の支援、貧困の削減、環境保全、地方活性化といった社会が抱える課題の解決をビジネスの手法で目指す取り組み。事業体はNPOや企業など。
11	ESD (持続可能な開発のための教育) 2005～2014年の10年	環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動。(主導機関ユネスコ)
11	MDGs	Millennium Development Goalsの略。2000年の「国連ミレニアム・サミット」で出された「国連ミレニアム宣言」に基づき翌年(2001年)に採択された「ミレニアム開発目標」。2015年を目標達成年として、極度の貧困と飢餓の撲滅など8つの目標。
11	GAP	Global Action Program 2014年11月、「国連ESDの10年」の取り組みが総括され、今後、世界の教育において、ESDを主流化し、すべての関係者に「ESDに関するグローバルアクションプログラム」の実施を要請。「あいち・なごや」宣言。
13	SDGs(エスディーゼーズ) (持続可能な開発目標) 2015年～ 2030年度の実現を目標に 193の国連加盟国が採択	2015年9月の国連サミットで採択された2030年までの国際目標のこと。「持続可能な生産と消費」「教育」等、包括的な17の目標を設定し、地球規模で課題解決に向けた取組が推進されている。
13	フェアトレード	公正取引。発展途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することを通じ、立場の弱い途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す運動。
14	包摂的な社会	人々と社会の関係性において不利な立場に置かれている個人やグループが存在する社会で、すべての人が潜在的に有する能力をフルに発現できる社会のこと。 社会的排除の反対。
20	放課後子供教室	すべての子どもを対象に放課後や週末等に小学校の余裕教室等を活用し、安全・安心な活動拠点を設け、地域の方々の参画を得て、勉強やスポーツ・文化芸術活動、地域住民との交流活動等の機会を提供する事業のこと。
21	社会教育法第3条第1項 (地方公共団体の任務) “環境の醸成”	(国及び地方公共団体の任務) 第三条 国及び地方公共団体は、この法律及び他の法令の定めるところにより、社会教育の奨励に必要な施設の設置及び運営、集会の開催、資料の作製、頒布その他の方法により、 <u>すべての国民があらゆる機会、あらゆる場所を利用して、自ら實際生活に即する文化的教養を高め得るような環境を醸成するように努めなければならない。</u> 2 国及び地方公共団体は、前項の任務を行うに当たっては、国民の学習に対する多様な需要を踏まえ、これに適切に対応するために <u>必要な学習の機会の提供及びその奨励を行うことにより、生涯学習の振興に寄与することとなるよう努めるものとする。</u> 3 国及び地方公共団体は、第一項の任務を行うに当たっては、社会教育が学校教育及び家庭教育との密接な関連性を有することにかんがみ、 <u>学校教育との連携の確保に努め、及び家庭教育の向上に資することとなるよう必要な配慮をするとともに、学校、家庭及び地域住民その他の関係者相互間の連携及び協力の促進に資することとなるよう努めるものとする。</u>
22	ファシリテーター	会議において、議事進行やセッティングなどを担当するが、会議中に自分の意見を述べたり、集団活動そのものに参加したりせず、中立的な立場から活動の支援を行う者のこと。
22	ワークショップ	本来〈仕事場〉〈作業場〉を意味する言葉で、一般にグループ各人の創意工夫や実験を通して検討しあいながら行うセミナー、研究会をいう。